

No 143

2007.12

ひろお

議会だより

C contents

第3回広尾町議会の審議	2
第4回臨時会の審議	3
一般質問と回答	4
広尾町議会の状況	7
広尾町議会と市民生活向上の経過と展望	8



札幌ファクトリーツリー点灯式（11月3日）

○発行・編集／ 広尾町議会・議会広報特別委員会
〒088-2692 北海道広尾郡広尾町西4条7丁目

E-mail: gikai@town.hiroo.hokkaido.jp

TEL: 01566-2-0130（議会直話） FAX: 01566-2-4853

第3回定例会

定例町議会は、平成19年9月10日に開会、会期を13日までの4日間としました。

人事案件を始め、条例の一部改正や補正予算などを審議し、いずれも原案どおり可決しました。

また、平成18年度各会計決算認定は、決算審査特別委員会に付託され、閉会中の継続審査としました。

□公営住宅の建設を求める陳情書

第2回定例会で産業常任委員会に付託され、閉会中の継続審査となっていた本陳情は、本会議において委員会の報告どおり、趣旨採択と決定。

□平成18年度一般会計ほか9会計の決算認定

一般会計、7特別会計、2企業会計の合わせて10会計の決算認定は、設置された決算審査特別委員会に付託され、閉会中の継続審査とした。

□専決処分の承認（平成19年度一般会計・簡易水道特別会計補正予算）

平成19年7月12日に発生した雷で被害を受けた簡易水道

施設の災害復旧工事に緊急を要するため、補正予算の専決処分を承認した。

□広尾町固定資産評価審査委員会委員の選任

平成19年10月3日で任期満了となる山川揚大氏の再任に同意した。

□広尾町教育委員会委員の任命

平成19年10月8日で任期満了となる山下純一氏の再任に同意した。

□損害賠償の和解及び損害賠償の額を定める

平成19年5月8日、町内西2条9丁目の道道交差点で、一時停止を無視した相手方車

両が町公用車に衝突。

当該車両に対する損害賠償の和解と、その賠償金額を可決。

◇賠償金額 4万円

□損害賠償の和解及び損害賠償の額を定める

平成19年6月27日、役場庁舎前で、町公用車が駐車中の相手方車両に接触。

当該車両に対する損害賠償の和解と、その賠償金額を可決。

◇賠償金額 12万1370円

□広尾町名誉町民条例の一部改正

本町に在住する名誉町民に、生存中に限り支給することとされている年金を廃止する条

例の一部改正を可決。

□広尾町名誉町民の決定
泉 耕 治氏（77歳）

※町長として6期24年間、本町の行政、産業、経済の発展及び教育文化、福祉の増進に多大な貢献に対し、名誉町民の称号を贈ることを決定。

＝ 討 論 ＝

★反対討論 村上 正篤議員
名誉町民は、本町における最高位の功績と業績をたたえるものであり、条例に規定している資格要件を満たしていない。

☆賛成討論 小田 英勝議員
泉氏は、町長として本町の行政、産業、経済等の発展に貢献され、名誉町民にふさわしい方である。

□財産の取得

◇取得財産 スクールバス

1台（41人乗）

◇契約相手 街道東車輛工業

◇取得額 1679万9600円



- 平成19年度一般会計ほか7
会計予算の補正
8会計の補正予算は、予算
審査特別委員会で審査の結果、
可決すべきと決定。
本会議で原案どおり可決。
(同特別委員会の質疑状況は
7ページに掲載)
- 平成19年度一般会計及び簡
易水道特別会計予算の補正
台風9号の大雨等により被
害のあった公共施設の災害復
旧費の補正予算が提案され、
原案どおり可決。
- 意見書案6件を可決、陳情
書1件を採択
意見書、陳情書の内容は10
ページに掲載。

第4回臨時会

閉会中の所管事務調査

2 常任委員会と議会運営委員会は、第4回定例会までの
閉会中に、次の所管事務調査を実施します。

- | | |
|----------|--|
| ◇総務常任委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①町懸案施策とまちづくり計画の進
ちよくについて ②NPO法人の活動状況と支援・育
成について |
| ◇産業常任委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①十勝港の整備状況について ②町道の除排雪計画について ③水産加工の生産及び販売状況につ
いて |
| ◇議会運営委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ①議会の運営に関する事項について ②議会の会議規則、委員会に関する
条例等に関する事項について ③議長の諮問に関する事項について |

- 平成19年度広尾町一般会計
補正予算(第7号)
歳出のみの補正で予算総額
は変わらず。(港湾管理特別
会計への繰入金等1327万
9000円と予備費減額の補
正) 原案どおり可決。
- 平成19年度広尾町港湾管理
特別会計補正予算(第2号)
歳入歳出予算の総額に、4
61万5000円を追加。歳
入歳出予算総額をそれぞれ1
億9201万5000円とす
る補正予算を原案どおり可決。

平成19年第4回臨時会は10月15日に開会、補正
予算2件(丸紅㈱グループ等の十勝港進出に伴
う関連予算の補正)が提案され、原案どおり可
決しました。

一般質問

3人が登壇 行政の考えを問う

Q 開町記念事業を行 う財政状況か

A 町民理解が得られる内容に



今年の開町記念式典

貴重な財源を少しでも福祉、教育、産業振興に振り向け、また不慮の災害にも備えるべきと思う。管理職会議でも十分討議されていないのではないか。

大野町長

記念事業は、開町100年以降、10年ごとに時代環境も考慮しながら実施している。

140年記念事業は、まちづくり推進総合計画でも位置付けており、財政状況等も勘案して実施すべきと思っている。

小田雅二議員
町は来年の開町140年記念事業のアイデアを町民から募集し、決定すべく推進委員会を立ち上げたが、この厳しい財政難の中、130年の時と同様に約1500万円もの予算で実施することに町民の理解が得られるとは思えない。毎年の記念式典程度に抑え、

「開町140年記念事業推進委員会」を中心に、町民から広くアイデアを募集し、10年に1度の節目として、町民の理解が得られる事業内容を考えている。

Q インフルエンザの予防対策は

A 予防接種の助成、支援を検討

小田雅二議員

インフルエンザに感染した場合、特効薬としてタミフルが良いとされ、各自治体も備蓄に努力したが、服用後の飛び降り事故の多発から、10代

することになると予想される。管内でも2町村が補助を行っているが、町はどのような対策を考えているのか。

大野町長

にに対しては使用できなくなり、受験生などは予防接種で対応

児童生徒に対するインフルエンザ対策として、予防接種の助成を、少子化

対策の一環で管内でも実行している自治体があり検討したい。



インフルエンザ予防策（広尾小）

しかし、1歳から6歳未満の幼児では、発病を阻止する効果は小さいと聞いている。予防方法として帰宅時の手洗い、うがいなどの周知も行いながら、調査研究、検討したい。

Q 問題が多い後期高齢者医療制度

A 住民の立場で取り組む



国保係窓口

車 清一議員

来年4月から70歳から74歳の病院での負担が2倍になり、75歳以上の後期高齢者は診療が差別される。世界に例がない乱暴な医療制度の改悪が拙速といわれる形で強行されることに大きな怒りが全国規模での運動となってきた。町は広報に連載したり、説明会なども行っているが、町議会では「今までと何も変わらないから御安心を」という態度しか示していない。少ない年金から保険料が天引きされる老人の気持ちを考えるべきだ。

大野町長

平成20年4月からの医療制度の改正について、町広報や

町内会、老人クラブに呼びかけて説明会を実施した。また、保険料の軽減措置も現行の老人保健制度と同様になっており、直接の窓口でもあることから、親切に対応したいと考えている。

今回の医療制度改革では、予防、健診の充実が盛り込まれており、町もこれに力を入れた。また、既に病院にかかっている方には、昨年からの保健師による重複・多受診者に対しての実態把握と、病院のかかり方などの保健指導を進めている。後期高齢者医療制度に対する問題点、改善点は、全国共通の問題でもあり、関係機関と連携し住民の立場で取り組む。

Q 地方交付税など 地方財源の確保を

A 5つの計画を国に提出

旗手恵子議員

本町の2007年度普通交付税は前年度から減額で決定されたが「新型交付税」、「頑張る地方応援プログラム」は、小規模自治体への支援内容となっている。

「頑張る地方応援プログラム」の事業計画内容はどうか。一般財源確保のため3000万円、3年間の枠を十分活用すべきでは。

来年度以降、条件不利地域の自治体への交付税削減にならないよう、国・道へ働きかけるべき。

大野町長

地方交付税は、対前年比総枠で減となっており、新型交付税の恩恵はなかった。

また、頑張る地方応援プログラムは、3年間で9000万円の特別交付税措置があり、5つの計画を提出した。

- 1 子育て家庭支援
- 2 サンタランドのまちづくり

庁舎で議会の審議等を放映

本会議中の議場の模様は庁舎1階ロビー

のテレビでも御覧

いただけます。



- 3 安心・安全なまちづくり
(学校の耐震関係)
 - 4 健康サポート(健診関係)
 - 5 高齢者・女性に優しい漁業(漁業の振興策)
- 総事業費は約3億7000万円、うち約2億3000万円が一般財源で、採択結果は10月に示される予定である。
- 地方交付税は、概算要求で来年度4%減と言われており、阻止に向けて全国の自治体とともに国に訴えたい。

予算審査特別委員会

委員長 田中 巧
副委員長 馬場 覚



増改築が計画されている町立国保病院

国保病院事業会計

平成19年度一般会計ほか7会計の補正予算案8件は、9月10日に設置された予算審査特別委員会に付託し、13日に再開された同特別委員会で審査を行い、原案どおり可決すべきものと決定しました。

Q 病院増改築工事設計委託料が当初予算額と比べ約2

倍に変更となった理由は。

A 当初計画を見直し、増築部分を渡り廊下で結ぶ方式に変更したため。

Q 当初の設計委託料を積算

する段階で基本的な考えが無かったのでは。

A 再精査の結果、増築面積を当初計画より増やすこととした。

総務大臣から感謝状贈呈

浜頭正治議員が町議会議員として35年以上在職し、地方自治発展の顕著な功績に対し、このほど総務大臣から感謝状が贈呈され、10月30日に、良知議長から伝達されました。

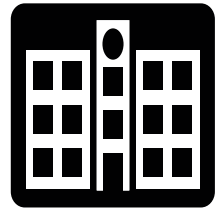


平成19年度補正予算の内訳

(単位：千円)

会 計 名	補 正 額	補正後の額
一 般 会 計	215,121	7,423,160
簡易水道事業特別会計	16	77,262
下水道事業特別会計	928	587,212
国保事業勘定特別会計	119	1,238,570
介護保険特別会計	11,580	594,132
介護サービス事業特別会計	121	230,122
国保病院事業会計 (収益的支出)	0	882,754
水道事業会計 (収益的収入)	87	133,411
(収益的支出)	88	101,788

総務常任委員会



所管事務調査の経過と結果

一般廃棄物の処理状況及びリサイクルの取組について

開催日 平成19年8月1日・
9月10日

調査に先立ち、南十勝複合事務組合環境衛生センターの視察を行い、一般廃棄物の搬入・処理状況と容器リサイクル法に基づくアルミ缶、ペットボトルなどの資源回収業務について説明を受けた。

より減少傾向にある。
一方、住民による直接搬入量は年々増加している。センターで処理するごみの55%は、広尾町からの搬入分である。
平成16年の調査結果によると、もえるごみの1人当たり一日排出量は、全国平均で1086グラム、北海道は1200グラム、広尾町は1076グラムで全国平均をやや下回る。町では今後も住民の協力を得てごみの減量化に取り組むとのことだった。



アルミ缶などを資源回収（環境衛生センター）

町懸案施策とまちづくり計画の進捗について

第4次まちづくり推進総合計画実施計画（平成13～22年度）の進捗よく状況について説明を受けた。

町主体の総事業費は135億4200万円で、前期5か年（平成13～17年度）の事業費は66億1400万円となり、進捗よく率は48・8%。国、道、団体主体の総事業費は117億2000万円で、前期事業費は67億2900万円となり、進捗よく率は57・4%。総体では52・8%の進捗よく状況となっている。

また、当初計画に網羅されていた事業のうち、（仮称）ふれあい交流館や地場産品加工研究施設などの大型事業は、財政事情などにより次期計画に先送りしたとの説明があった。

② 町懸案施策

ア 町立病院増改築計画について

外来患者の利便性及びプライバシー保護を目的とした診療室、待合室などの増改築について再度精査した結果、当初計画より面積を増やし、ま

た建物本体の耐震診断を必要としない「渡り廊下」方式で増築する。これにより、面積は当初計画比で約1.5倍となる見込みで、所要の設計委託料の増額を9月に補正提案し、工事については冬季間の施工を避け、来春の着工を目指したいとの説明を受けた。

委員から、患者の利便性を図る増改築計画であるから時間をかけて精査すべきとの意見があった。

イ バイオエタノール製造工場誘致活動について

原油価格の高騰が続く中、次世代の燃料としてバイオエタノールが世界的に注目を浴びている。輸入原料による製造工場の立地で港湾の利活用と、さらにエタノール製造過程から出る残渣物は家畜用えさとして有効利用が図られることから製造工場を誘致するための活動を行っている期成会に対し、要望活動費を助成している。

委員から、補助する以上、町としても予測調査等が必要であるとの意見があった。

産業常任委員会



所管事務調査の経過と結果

町道の維持管理について

開催日 平成19年7月31日

調査に先立ち、町道4か所（オス口通・丸山南2丁目・並木通東2丁目・墓園前道路）の現地調査を行った。

現在、町道481路線の総延長は約437kmで、そのうち舗装延長は約200kmで舗装率は約45%となっている。

道路維持補修（舗装）事業、道路新設改良事業、道路環境整備事業、街路樹管理事業それぞれの事業執行率及び進捗よく状況について説明を受けた。また、委員から次の質疑があった。

① 町道と国道等の交差点付近の雑草が刈られていないため見通しが悪く、交通安全上、危険な箇所が見られる。

町では、国道を管理する帯広開発建設部にその都度申し入れをしているが、危険性が高い場所は町で対応する場合もある。

② 町道の雑草駆除に、除草剤が使用されているが、環境面で問題がある。

町では、人家との距離等、

周辺状況を十分考慮して使用しているとの説明があった。

③ オス口通や丸山通の歩道の平板ブロックは、サンタランドの町としての景観形成を目的としたが現在では劣化が激しく、歩行に支障をきたしている。

町では、財政的な制約もあるが、安全性を重視し、部分的な改修で対応する方針である。

④ 街路灯の整備は、基本的に町内会からの要望を集約し現地確認のうえ計画的に行っている。また、並木通東2丁目の交差点の解消に向けて町では、地権者と話し合いを

個別排水処理事業の進捗よくについて

個別排水事業には、環境省型の合併処理浄化槽設置整備事業と総務省型の個別排水処理施設整備事業の2種類があるが、当町は総務省型を選択し、平成15年から10か年計画で進めている。

しかし、17年度以降は、計画に対し半数以下の実績戸数となっている。原因としては高齢化や農家等の後継者不足の問題があり、整備計画自体の見直しも必要である。



町道を調査（オス口通）

議会は公開が原則です

- ・ 定例町議会は、3月・6月・9月・12月の年4回開かれます。
 - ・ 臨時町議会は必要のつど開かれます。
- どうぞお気軽に議会を傍聴しましょう。

お問い合わせは議会事務局へ。TEL2-0180



町民の声を国政に

平成19年第3回定例会に意見書案6件が提出され、審議の結果、全案を可決して内閣総理大臣ほか関係機関に送付しました。

◇自治体財政の充実・強化を求める意見書

(提出議員 神社 昌勝)

◇後期高齢者医療制度の改善を求める意見書

(提出議員 車 清一)

◇後期高齢者医療制度及び70歳～74歳の医療費2倍化(2割負担)の改善を求める意見書

(提出議員 車 清一)

◇消費税増税等庶民増税に反対し、大企業・大資産家優遇税制の是正を求める意見書

(提出議員 車 清一)

◇生活保護、児童扶養手当などの福祉切下げの中止と改善を求める意見書

(提出議員 旗手 恵子)

◇道路整備に関する意見書

(提出議員 村上 正篤)

陳情書を採択

◇「後期高齢者医療制度及び70歳～74歳の医療費2倍化(2割負担)の改善を求める意見書」の提出を求める陳情書を採択しました。

陳情者 十勝勤医協広尾友の会

代表 村上 雅彦

◇産業常任委員会に付託され閉会中の継続審査となっていた「公営住宅の建設を求める陳情書」は、第3回定例会において趣旨採択しました。

陳情者 広尾町七丁目町内会

会長 内木 実

議 会 日 誌

【9月】

5日 議会運営委員会

6日 広尾市街地区敬老会

10日 第3回町議会定例会(～13日)

20日 開町記念式典

【10月】

4日 十勝町村議会議員研修会(音更町)

15日 第4回町議会臨時会

15日 議員協議会

23日 産業常任委員会行政視察(～24日・小樽市、札幌市)

27日 中川義雄内閣府副大臣就任祝い(帯広市)

27日 サンタランドツリー点灯式

30日 決算審査特別委員会(～11月2日)

【11月】

9日 議員定数に係る調査特別委員会

10日 東京広尾会(～12日・東京都)

13日 総務常任委員会行政視察(～14日・美瑛町、清水町)

13日 財務行政懇話会

16日 産業常任委員会

19日 議会広報特別委員会

21日 総務常任委員会

22日 十勝圏複合事務組合議会・十勝環境複合事務組合議会(帯広市)

28日 町村議会議長全国大会(～30日・東京都)

編集後記

突然ビッグニュースが飛び込んできました。

丸紅(株)はじめ大手5社が十勝港に進出し、飼料コンビナートを建設するという、極めてうれしいニュースです。

投資額は一四〇億円を超える見込みであり、私を含め多数の町民は驚くとともに、歓喜したと思います。

この投資額の大きさは比較対象の例が見あたらず、啞然(あざん)としつつも、まずは本町経済にもたらす大きな波及効果を期待せずにはいられません。十勝港の利活用は我が町の存亡をかけた重要懸案事項であり、町民の宿望にほかなりません。すでに現地法人設立に動き出しているとも聞きます。

広尾町はじまって以来の大規模計画に、私たちは議員としての使命を最大限に発揮しなければと痛感するところであります。

船木登良男 記